

# 来て!見て!知って!文化財

## 諏訪神社本殿

技巧派が追究した彫刻の美 上新田1032

上新田地区にある「諏訪神社本殿」(熊谷市指定有形文化財建造物)は、当地の代官であった柴田信右衛門豊忠えんきょうによって延享3年(1746)に創建されたと伝えられ、その後、嘉永5年(1852)に再建されました。創建時の棟札によると、「歓喜院聖天堂」の造営に深く関わった三ヶ尻村出身の内田清八郎が大工棟梁となり、上州花輪村出身の石原吟八郎が彫刻を担当しました。また、林兵庫正清が細工の意匠に関わる他、彩色は聖天堂と同じく狩野金信が施し、高い技術力を発揮しました。檜皮葺の屋根は信州松本城下の太田松右衛門などに委ねられ、いわゆる当時の日本を代表する技巧派集団によって本殿の建立がなされたことが分かります。

本殿の構造は、間口1.47m、奥行2.27mの檼造けやきづくりによる一

間社流造げんしゃながれづくりで、屋根の下には三角の形をした千鳥破風ちどりばふ、軒の下には上部が丸く形作られる唐破風からばふを付け、正面には屋根が張り出した向拝を設けています。現在、彩色の多くが薄れていますが、各所に施された人物や動植物の装飾彫刻から放たれる雰囲気きょういが際立ち、実際の規模以上の風格を感じることができます。歴史を越えて保存されてきた本殿からは、渋さの中にも豊潤な芸術性が薫り立ち、江戸時代中期の熊谷地域が彫刻技術の最先端の地であったことを示す貴重な証しとなっています。



◆江南文化財センター ☎048-536-5062